

# クラスの絆を実感し、四十四人が巣立ち

## 吉川中学校で第31回卒業式



5日は市立吉川中学校の第31回卒業式でした。所属する常任委員会の会議と重ならなかつたので参加してきました。糸魚川市のように市議会を休会にして、若者の巣立ちを祝いたいものです。

青木校長は、「30周年という年に最高学年としてリーダーシップを発揮し、全校をまとめてくれた。音楽祭での3年生の合唱は聴くもの心をゆさぶった。鳥は自分の翼で飛ぶ。みなさんも自分の翼だけで大空を悠々と飛ぶように。自分らしさを出すための努力をしてほしい」とはなむけの言葉を送りました。

在校生を代表して送る言葉をのべたのは松原春菜さんです。「先輩の皆さん方からは手を引いて励ましてもらったから早く学校生活に慣れることができました。（30周年記念の）体育祭では先輩たちの真剣な表情を見て、全員が本気になった。音楽祭では、みなさんの美しく、澄んだ歌声が体育館に響いた。みなさんの歌声はこれから私たちの胸の中で響き続けるでしょう」と卒業生に感謝の気持ちを伝えました。

人の名簿を見たら、よく知っている生徒の名前がいくつもありました。従弟の子どものTさん、母親に連れられてわが家の牛舎に何回も遊びに来たKさん、町政レポート時代に何度も登場してもらったIさん、一昨年の市議選前の100日間の朝の辻立ちの際、いつもはずかしそうに「おはようございます」と声をかけてくれたUさん、夏休みの宿題で「市会議員をやることになった動機はなんですか」とインタビューしてくれたKさんなどです。みんな大きくなつて、たくましくなりました。

吉川中学校は今年度が創立30周年です。青木孝史校長のはなむけの言葉、在校生の送る言

葉、卒業生の巣立ちの言葉、いずれも30周年記念事業として取り組んだ体育祭や音楽祭などにふれていました。

巣立ちの言葉は卒業生を代表して江村祐太さんがのべました。最初に学校生活でお世話になった先輩、後輩、先生などに感謝の言葉をのべた後、ここでも30周年記念事業にふれました。「体育祭では様々なドラマがあった。ただひとつ、優勝を目指して、毎日学校に通い、夕方まで頑張った。本番の体育祭では最高のダンスができた。音楽祭では、未来への希望が込められた歌を通してクラスの絆を実感できた」と語りました。そして、最後に、「中学時代は、これからの人生でも忘れることのできない、かけがえのない時間だった。44人の仲間と一緒に泣いて、笑って、たくさんの思い出をつくつ

### シリーズ 上越市内の橋

#### 第30回 赤倉大橋



「赤倉大橋」と書いて「あかくらおおはし」と読みます。国道253号線、大島区田麦地内にあります。紅葉のシーズンになると、この橋からの眺めはすばらしく、車を止めたくなるほどです。橋の近くには大山温泉あさひ荘があります。橋の高さは市内でも屈指、約50メートルあります。橋長は約145メートル。竣工は1983年（昭和58年）です。

た。時にはお互いすれ違ったこともある。でも、この仲間なら絶対笑って卒業できると思っていた。みんながいたから悩みや困難を乗り越えることができた。本当にありがとう」とのべると、体育館では拍手が起き、すすり泣く生徒もいました。

卒業式が終わってから、恒例となった卒業生による全員合唱、今回は「YELEL」でした。「♪サヨナラは悲しい言葉じゃない いつかまためぐり逢うそのときまで 忘れはしない誇りよ 友よ 空へ」。とてもいい合唱でした。



3月27日までに刊行します。定価は税込で1000円。販売書店等は追ってお知らせします。



NO 1440  
2010.3.14

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/

市議会文教経済常任委員会（佐藤敏委員長）が8日、9日が開かれ、新年度一般会計予算などの審査が行われました。同委員会で注目された質疑を2、3紹介します。

## 新規就農者、09年度は41人

まず新規就農者についてです。委員会の中で2009年度（平成21年度）の新規就農者が41人であることが明らかにされました。2006年度（平成18年度）は19人でしたから大きな伸びといえます。新規就農者のほとんどは20代、30代の若者で、地元の人が多いといえます。この増加について野口和広農林水産部長は、「最近では農業が魅力的に見えてきたのかと期待している」とのべま

した。新規就農者の内訳を問われた笹川肇農業振興課長は、「新規就農者41人のうち、法人に雇用された人は33人だ。これは上越農業が変わる第一歩だと見ている。通年で雇用となると園芸などの複合を考えていかねばならない。複合を行う会社につながる。これからは強力で進めていきたい」とのべました。

## イノシシ被害面積は前年度の1・5倍、14・4ヘクタールに

2009年度（平成21年度）の農業共済で確認されたイノシシの被害面積は14・4ヘクタールに増加していることが同委員会審査で発表されました。前年度は9・2ヘクタールでしたから、1・5倍にも増えたこととなります。

被害はこれまで柿崎区の山間部が中心でした。それがこの1年間に吉川区、大島区、合併前上越市の桑取地区など全市域に広がりました。委員からは、被害の拡大防止を求める手立てについて質問が集中しました。

答弁に立った笹川肇農業振興課長は、「対策としては、①個体数を早く減らす。②などによる被

害防止の2つを考えている。電気柵は昨年、総延長で50キロにわたって設置したが、今年度は地域からの要望もあり、87キロに増やした」とのべました。

上越市は今年度、鳥獣被害防止対策事業として、新年度予算で1240万円を計上しています。これは国の100%補助事業で、市の鳥獣被害防止対策協議会が主体となって取り組む計画となっています。

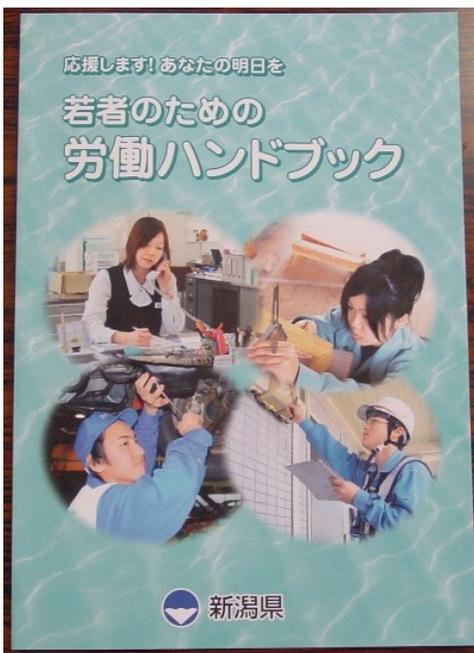
## 児童虐待に関する相談、年間66件

8日の同委員会で衝撃的な事実が明らかになりました。親などから虐待されていることを子どもが先生に訴える件数が平成20年度、上越市内において66件にものぼっていたということです。虐待を受けた子どもも明らかなにされました。

これは永島義雄議員（無所属）の「子どもが虐待で悩み、教育現場で相談するケースはなにか」との質問に教育センターの村山信一所長が答えたもの。村山所長は、「子どもたちが先生に訴えるだけではなく、親子が相談に来るケースもある。場合によって

は、暴力を避け

## 県の若者向け労働ハンドブック ためになると評判です



日本共産党の前県議、五十嵐完二さんの質問で県が約束していた『若者のための労働ハンドブック』（写真）（作成は新潟県産業労働観光部労政雇用課、025-280-5259）がこのほど出来上がり、ハローワークなどで配布されています。

わずか60数ページの本ですが、中味は就職活動の話から始まって、ビジネスマナーの基本や仕事の進め方、働くルールなど最低限知っておきたいことが盛り込まれていて、たいへん分かりやすくまとめられています。

参考になるのは法律問題だけではありません。私のような世間知らずの者には勉強になることばかりです。「応接室は長椅子が来客用、肘掛椅子が自社用の場合が一般的」「名刺交換は、文字や会社のロゴ等に指がかからないように」「いただいた名刺はすぐにしまわず、用件が済むまでは机に置く」「電話は、コールが鳴って3回以内に受話器を取り、明るく聞きやすい声で」。長年の経験でこれに近いことはやってきましたが、きちんと学んだのは初めてです。

るため施設で保護したり、遠隔地に避難してもらうこともある」とのべていました。再質問で永島議員は、「上越でもご多聞にもれず、かなりの件数にのぼっていると思っただ。不況の中で、一番弱い、無抵抗の子どもにあたるケースも増えているのではないかと。重大事態に至らないうちに早め、早めに対応を」と訴えています。市教委では新年度に学校問題解決支援プロジェクトチームを新設（約270万円を予算措置）し、いじめ、不登校などの問題に迅速・的確に対応することになっています。問題の早期解決を図るため、ソーシャルワーカーを採用、指導主事や教育相談部長などとチームを編成し、これまでの相談体制を強化して学校支援を強めるとのことです。